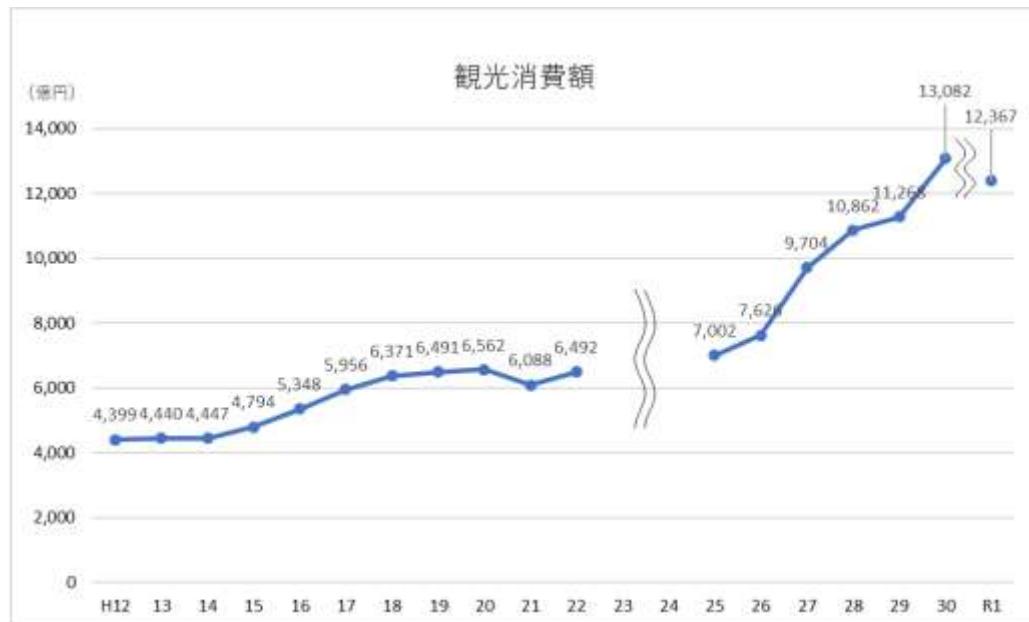


# 最新データから見る京都観光の現状(観光客)

## 1 観光消費額

(資料) 令和元年 京都観光総合調査

- 令和元年の観光消費額は**1兆2,367億円**
- 京都全市民の年間消費支出の約55% (京都市民の約81.3万人分) に相当



### 令和元年

- 日本人観光消費額単価      日帰り : 11,054円      宿泊 : 54,970円
- 外国人観光消費額単価      日帰り : 19,766円      宿泊 : 60,991円

※平成23年及び24年は調査手法の変更により観光客数を推計していないことから、観光消費額の総額を推計できない。  
※調査手法の変更により、令和元年の数値は平成30年までの数値と時系列による単純比較はできない。

## 2 宿泊客数

(資料) 令和元年 京都観光総合調査

- 令和元年の宿泊客数 (実人数) は1,317万人



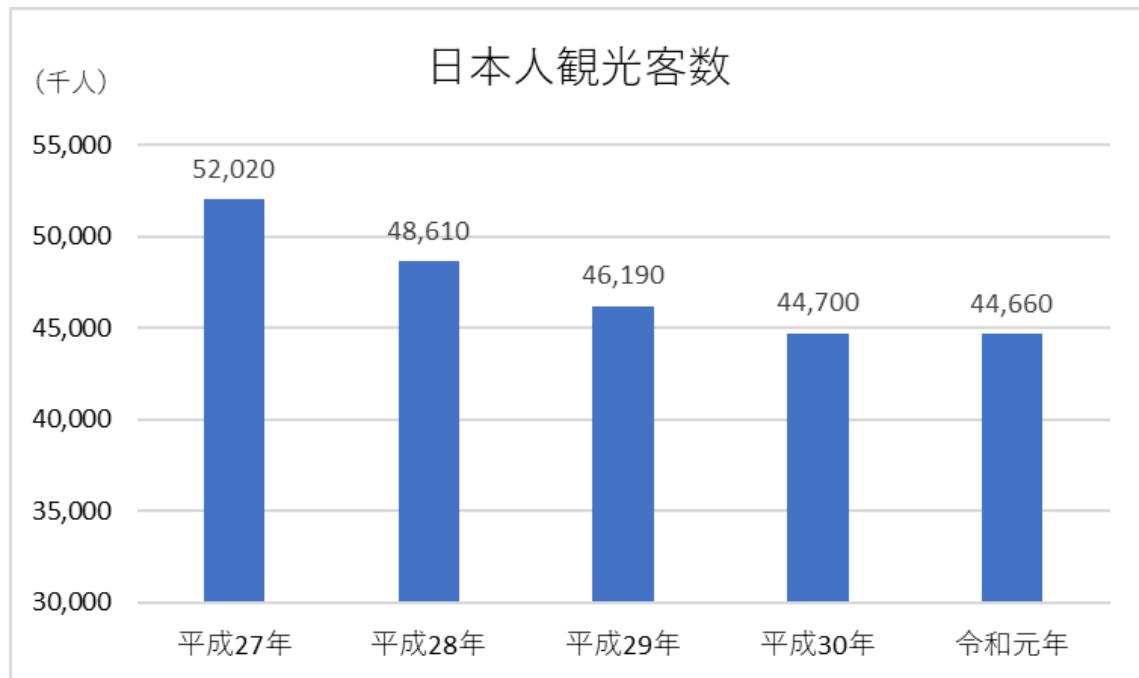
※調査手法の変更により、令和元年の数値は平成30年までの数値と時系列による単純比較はできない。

# 最新データから見る京都観光の現状(観光客)

## 3 日本人観光客数

(資料) 令和元年 京都観光総合調査

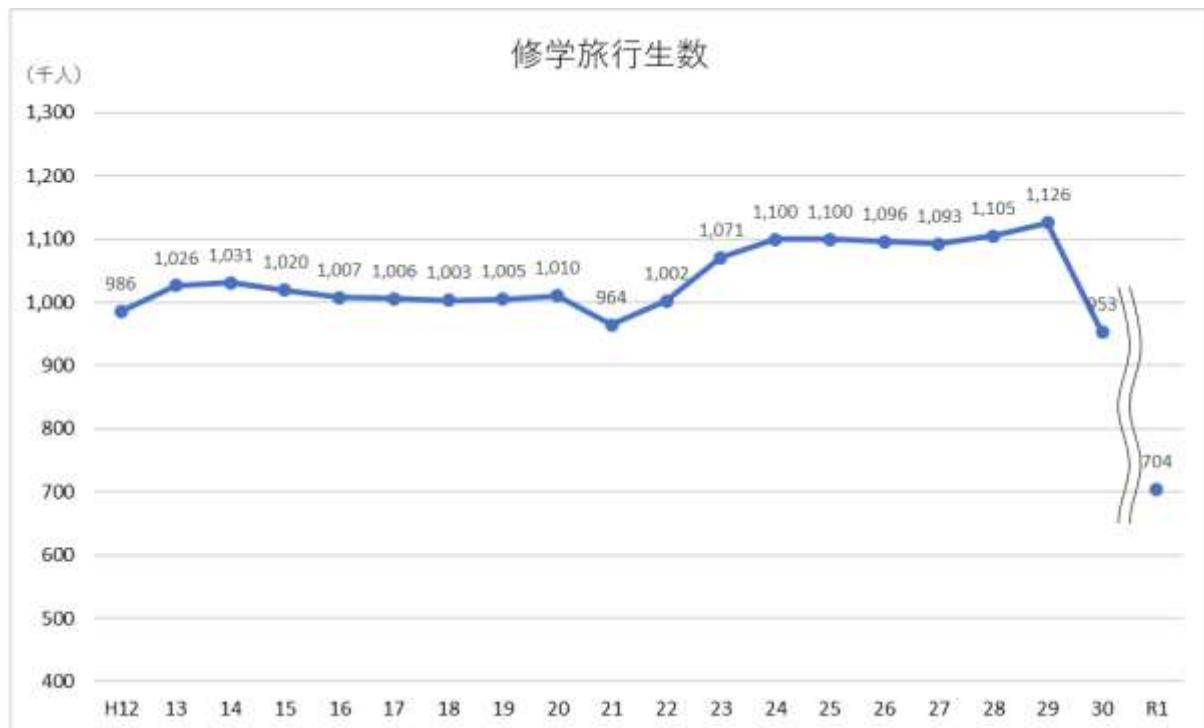
- 令和元年の日本人観光客数は、4,466万人



## 4 修学旅行生数

(資料) 令和元年 京都観光総合調査

- 令和元年の修学旅行客数（実人数）は、70万4,000人



※調査手法の変更により、令和元年の数値は平成30年までの数値と時系列による単純比較はできない。

# 最新データから見る京都観光の現状(観光客)

## 5 日本人観光客 満足度 (資料) 令和元年 京都観光総合調査

### (1) 京都観光の総合満足度(日本人)※令和元年

- 「大変満足」又は「満足」と回答された方が7割を超え、「やや満足」を含めると9割超の観光客が満足と回答

項目	大変満足	満足	やや満足	大変満足 ～ やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	大変不満	平均	
	7	6	5		4	3	2	1		
総合満足度 (日本人)	令和元年	22.6%	49.9%	18.8%	91.3%	7.1%	1.2%	0.3%	0.1%	5.8
	平成30年	23.4%	46.9%	20.0%	90.3%	7.7%	1.4%	0.4%	0.2%	5.8
	平成29年	23.5%	48.9%	18.5%	90.9%	7.0%	1.4%	0.5%	0.2%	5.8

### (2) 京都観光の残念度(日本人)※令和元年

- 「残念なことがあったか」という質問を行ったところ、残念なことがあったという回答が平成30年より減少

項目		残念なこと があった	残念なこと がなかった	無回答	合計
残念度 (日本人)	令和元年	44.7%	48.7%	6.6%	100.0%
	平成30年	46.5%	46.5%	7.0%	100.0%
	平成29年	46.0%	47.1%	6.9%	100.0%

- 残念なこととして、「混雑(20.2%)」「マナー(13.8%)」が上位

※残念なことがあったと回答された方を100%とした際の割合

## 6 外国人観光客 満足度

(資料) 令和元年 京都観光総合調査

### (1) 京都観光の総合満足度(外国人)※令和元年

- 「大変満足」と「満足」で約9割を超え、「やや満足」を含めると約98%が京都観光に満足と回答

項目	大変満足	満足	やや満足	大変満足 ～ やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	大変不満	平均	
	7	6	5		4	3	2	1		
総合満足度 (外国人)	令和元年	40.9%	50.5%	6.2%	97.6%	2.1%	0.2%	0.0%	0.1%	6.3
	平成30年	43.4%	45.1%	9.1%	97.6%	1.9%	0.2%	0.1%	0.2%	6.3
	平成29年	39.9%	46.8%	10.0%	96.7%	2.9%	0.4%	0.0%	0.0%	6.2

### (2) 京都観光の残念度(外国人)※令和元年

- 「残念なことがあったか」という質問を行ったところ、約8割の方がなかったと回答

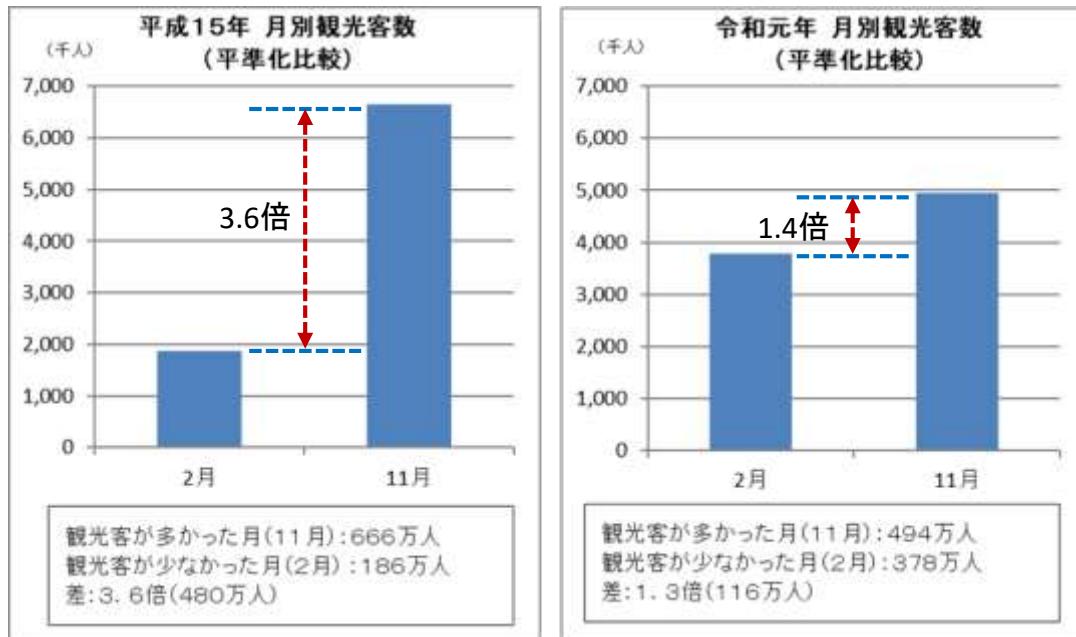
項目		あった	なかった	無回答	合計
残念度 (外国人)	令和元年	16.3%	78.4%	5.3%	100.0%
	平成30年	16.7%	78.5%	4.8%	100.0%
	平成29年	15.6%	79.7%	4.7%	100.0%

- 残念なこととして、「公共交通(16.9%)」「時間が足りなかつた(16.5%)」が上位

※残念なことがあったと回答された方を100%とした際の割合

## 8 月別観光客の繁閑差（最繁月・最閑月比較）

- ・月別観光客数（多い月）も666万人から494万人に減少
- ・平成15年に3.6倍あった繁閑差が、令和元年には1.3倍に縮小



(資料) 京都観光総合調査（令和元年）  
京都市観光調査年報（平成15年）

# 最新データから見る京都観光の現状(観光客)

## 9 訪問地（主要観光地）

### (1) 日本人観光客

(%)

日本人	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
清水・祇園周辺	34.8	40.9	51.0	51.3	56.4	47.7	53.9
嵯峨嵐山周辺	38.3	43.6	48.8	26.8	26.5	22.7	23.2
伏見周辺	7.6	5.9	11.3	15.3	15.8	15.0	14.8
京都駅周辺	37.0	48.7	44.6	51.7	53.0	50.4	46.1

### (2) 外国人観光客

(%)

外国人	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
清水寺	61.0	64.4	65.0	67.7	65.2	62.7	66.6
嵐山・嵯峨野	27.9	32.5	33.0	31.2	36.8	32.1	29.7
伏見稻荷大社	26.4	35.8	41.4	43.3	48.0	50.8	52.1
京都駅周辺	—	—	39.4	35.8	30.2	22.2	14.8

(資料) 京都観光総合調査（平成25年～令和元年）

## 10 訪問地（周辺観光地）

### ◆ 日本人観光客

(%)

日本人	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
伏見周辺	7.6	5.9	11.3	15.3	15.8	15.0	14.8
大原・八瀬周辺	1.4	2.3	4.3	3.1	3.2	2.3	2.1
高雄周辺	4.7	4.7	3.3	1.6	1.3	1.4	1.3
山科周辺	7.3	3.4	2.7	2.2	3.3	2.5	2.2
松尾・桂周辺	3.2	4.7	4.7	4.2	3.6	3.5	4.3
西陣・北野周辺	2.9	5.5	8.6	6.9	8.0	9.0	8.0

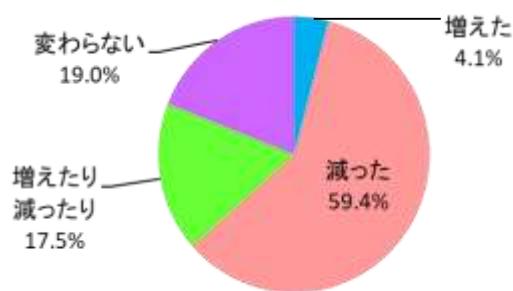
(資料) 京都観光総合調査（平成25年～令和元年）

# 最新データから見る京都観光の現状(観光客)

## 11 国内客の訪問頻度

(資料) 令和元年度 京都市訪問意向調査

- 京都への旅行経験者のうち、59.4%が「訪問頻度が減った」と回答しており、「増えた」と回答した人は4.1%にとどまっている。



- 京都への再訪希望がある人は、全体平均と比較して、「ゆっくり観光できないイメージ」や「宿泊価格の高騰」、「宿泊予約が取りにくい」が上回っており、再訪希望がない人は、「他の観光地に行くようになった」や「京都は行きつくした」が上回っている。

訪問頻度の減少理由	平均	再訪希望あり	再訪希望なし
外国人観光客が多く、ゆっくり観光できないイメージがある	36.8%	37.9%	35.6%
他の観光地に行くようになった	23.6%	21.0%	26.6%
宿泊施設の価格が高騰している	12.3%	14.5%	9.9%
宿泊施設の予約が取りにくい	9.6%	13.3%	5.4%
京都の観光地は行きつくした	5.7%	3.2%	8.6%

## 12 欧米豪の市場における認識

(資料) 令和元年度 京都市訪問意向調査

- キーワードから連想する観光地のイメージについて、「神聖で哲学的な体験ができる」、「歴史や遺産」など、日本から遠い欧米豪と比較的近距離のアジアでは、京都と東京の回答率が逆転しており、欧米豪ではまだまだ「日本=東京」のイメージが強い可能性がある。

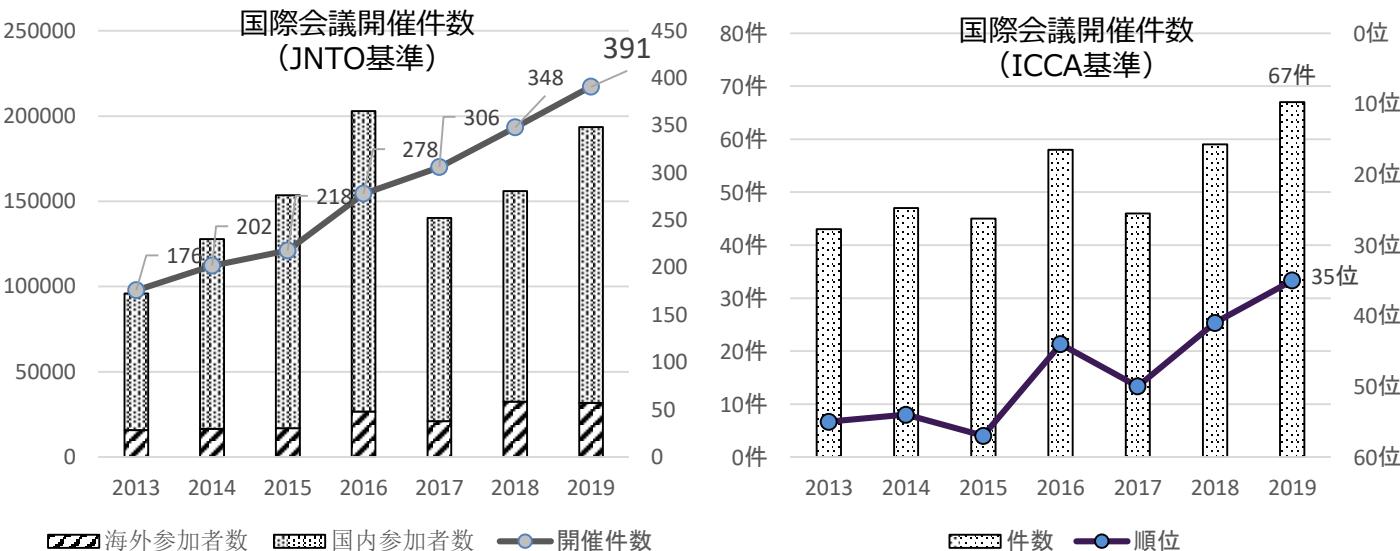
- 一方、「多様な楽しみ方ができる」や「上質なサービス」、「喫茶、スイーツ、ベーカリーが充実している」など、欧米豪とアジアの両方で京都と東京の回答率に大きな差があり、今まで以上に京都の多様な魅力や食の情報発信が必要である。

観光地のイメージ	京都		東京		差(ポイント)	
	欧米豪平均	アジア平均	欧米豪平均	アジア平均	欧米豪	アジア
神聖で哲学的な体験ができる	29.0%	26.3%	39.3%	19.3%	▲10.3	7.0
職人の技にふれる	29.6%	32.1%	39.8%	25.9%	▲10.2	6.2
世界の歴史、遺産の大切さを学ぶ	32.3%	38.5%	58.2%	34.0%	▲25.9	4.5
民族的な調度品を買う	31.5%	31.9%	43.1%	28.0%	▲11.6	3.9
洗練された文化やライフスタイルがある	30.7%	40.8%	56.2%	38.6%	▲25.5	2.2
ローカルフードがある	40.1%	37.3%	59.2%	49.2%	▲19.1	▲11.9
喫茶、スイーツ、ベーカリーが充実している	23.4%	28.7%	47.3%	46.8%	▲23.9	▲18.1
すべてが上質なサービスである	26.7%	33.2%	54.0%	53.1%	▲27.3	▲19.9
多様な楽しみ方ができる	30.8%	23.9%	53.2%	45.4%	▲22.4	▲21.5

# 最新データから見る京都観光の現状(MICE)

## 1 国際会議の開催件数

- 2019年の開催件数は391件（暫定）と6年連続過去最高値を更新（JNTO基準）
- また、開催都市の世界ランキングにおいて、京都市MICE戦略2020に掲げる世界35位の目標を達成（ICCA基準）



## 2 MICEの実態調査（主催者・参加者調査）

### (1) 国際会議の経済効果

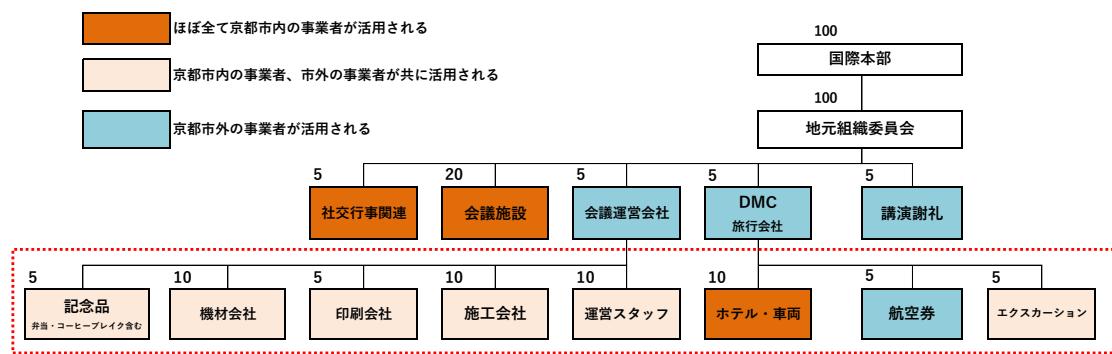
- 外国人参加者の宿泊費・日数、滞在費、総消費額のいずれも日本人参加者を上回っており、また、一般の外国人観光客の総消費額も上回っている。

	平均宿泊日数	平均滞在日数	市内宿泊費		市内滞在費		市内消費額
			1泊当たり	総宿泊費	1泊当たり	総滞在費	
全体	5.58泊	6.58日	14,791円	82,532円	8,641円	56,861円	139,392円
日本人	2.35泊	3.35日	10,974円	25,789円	7,100円	23,787円	49,575円 (20,931円)
外国人	7.19泊	8.19日	16,514円	118,734円	8,732円	71,516円	190,250円 (46,294円)

※ ( ) 内数値は一般観光客の数値 (京都観光総合調査から)

※ 滞在費…会議参加費と宿泊費を除く、飲食費やおみやげ代等

- 主催者の発注に係る市内事業者平均活用率は市内：(市内+市外)：市外 = 35 : 45 : 20 と一部が市外に発注されている。



# 最新データから見る京都観光の現状(MICE)

- ・参加者のレジャー泊（会議目的以外の宿泊）の実施割合は、外国人が日本人の6倍以上であり、レジャー泊をする外国人の総消費額は、しない外国人と比べて約1.4倍である。
- ・参加者の6割弱が同伴者を帯同している。同伴割合は外国人が日本人を上回り、平均同伴人数も2倍超である。
- ・外国人参加者の6割超が初入洛者であり、多くが再来訪意向を示している。

	レジャー泊者数 (実施割合)	平均宿泊日数	内訳	
			会議目的泊	レジャー泊
全体	273人 (27.7%)	5.58泊	4.31泊	1.27泊
外国人参加者	253人 (38.6%)	7.19泊	5.35泊	1.84泊
日本人参加者	20人 (6.1%)	2.35泊	2.23泊	0.12泊

	外国人	レジャー泊あり	レジャー泊なし
		¥225,547	¥166,109
総消費額	日本人	¥78,738	¥47,136
	外国人	8.7泊	6.2泊
延べ宿泊数	日本人	4.4泊	2.2泊

## (2) 地域貢献効果（市民の知見向上、伝統産業振興等）

- ・約半数の会議で市民向けプログラムが開催されているが、一部で、集客や予算、広報等が開催に向けての課題となっている。
- ・伝統産業製品や京都らしい演出への満足度は、主催者・参加者共に高いが、一部で活用されていない、又は知られていない事例や、ラインナップの少なさへの不満等も見受けられる。

## (3) 開催地決定要因

- ・開催地決定に際しては、地元組織委員会主導型が多いものの、国際本部や専門会社主導型も増えつつある。
- ・開催地決定要因は、「京都ブランド・観光的魅力」「ビューローの支援」「研究者の層の厚さ」等が多い。
- ・主導する組織のタイプやキーパーソンによって、決定要因は異なる。

## (4) 国際会議都市・京都の強みと弱み

- ・会議施設や宿泊施設の充実等のハード面、京都らしい社交行事やエクスカーション等のソフト面とも、満足度は概ね高く、京都での再開催意向も強いが、一部の施設やユニークベニューのキャパシティ、サービス・食事の質等への不満が見受けられる。
- ・「京都開催」の成果・利点として、「京都ブランド」による参加者数の増加や、参加者満足度の向上のほか、参加登録費・スポンサー収入増による収益黒字化、京都の歴史や文化を踏まえた宣言の合意等が挙げられている。
- ・会議内容、会議施設とも約8割が満足しており、特に外国人参加者の評価が高い。
- ・国際会議都市として京都に必要なものとして、「多言語対応」「環境への配慮」「施設（規模、アクセス、Wi-Fi環境、老朽化等）」が挙げられたほか、飲食やインフラ等への要望もある。

## (5) SDGs達成への意識

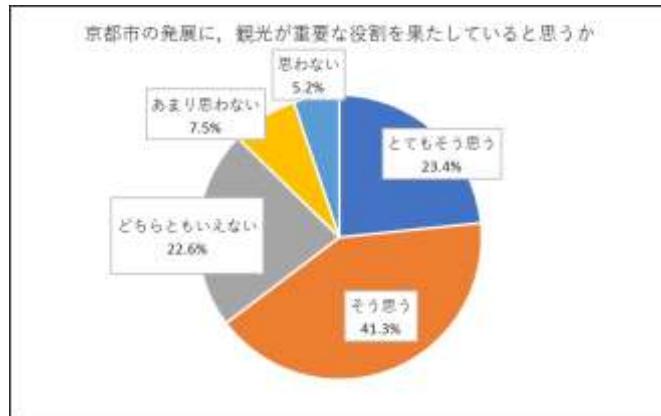
- ・主催者における環境配慮への意識は非常に高いが、予算や知識不足を理由に、実施できていない事例もある。
- ・また、参加者からも環境配慮のほか、バリアフリー・多様な文化への対応等、SDGsに資する取組への要望が多く見られる。
- ・オフシーズンにおける開催に向けては、財政的支援や、時期限定の特別イベント等について、主催者からの要望がある。

# 最新データから見る京都観光の現状(市民)

## 1 観光の重要度

(資料) 令和元年度市政総合アンケート「京都観光について」

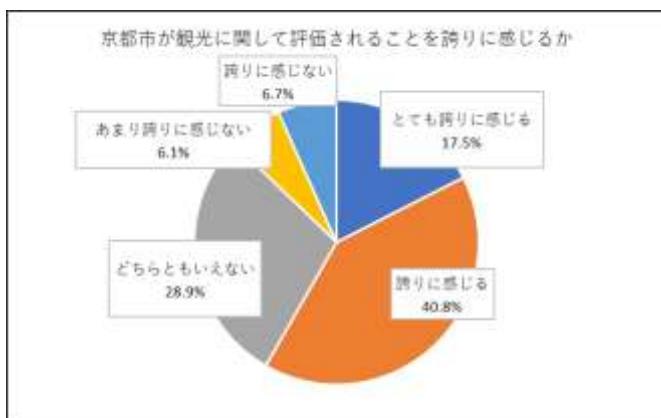
「京都市の発展に、観光が重要な役割を果たしていると思うか」の設問に対して、6割以上の方が肯定的な意見を回答



## 2 観光都市としての京都市に対する誇り

(資料) 令和元年度 市政総合アンケート  
「京都観光について」

「京都市が観光に関して評価されることを誇りに感じるか」の設問に対して、6割近くの方が肯定的な意見を回答



## 3 京都観光を取り巻く課題

(資料) 令和元年度市政総合アンケート「京都観光について」

観光地や公共交通機関等の混雑では、自身が経験されている割合が高く、宿泊施設の急増に伴う影響やマナー違反では、友人の話やテレビ等のメディアで目ににする機会が比較的高い傾向

	自分がよく経験する	ときどき経験する	親類・友人が経験	テレビ・新聞等で目にする	影響はない	わからない
給与等への好影響	4.4%	7.8%	6.9%	26.5%	49.9%	11.6%
買物環境向上	3.2%	12.7%	5.3%	21.4%	46.2%	16.4%
生活環境の向上	3.3%	13.7%	4.0%	20.7%	41.9%	20.6%
交通機関等の発達	5.4%	17.8%	4.0%	17.1%	39.2%	21.0%
交友関係の拡大	2.4%	8.7%	5.3%	13.5%	56.1%	17.7%
混雑（観光地等）	35.0%	30.9%	8.6%	17.4%	12.5%	8.1%
混雑（公共交通機関）	38.6%	32.9%	10.6%	14.8%	10.8%	7.2%
道路渋滞	32.8%	32.6%	9.1%	15.1%	12.1%	11.1%
宿泊施設急増に伴う影響	21.2%	23.4%	9.1%	24.3%	20.6%	12.8%
観光客のマナー違反	26.5%	31.1%	10.4%	25.3%	12.3%	10.1%

# 最新データから見る京都観光の現状(観光資源, 観光関連インフラ等)

## 1 旅館業許可施設・客室数

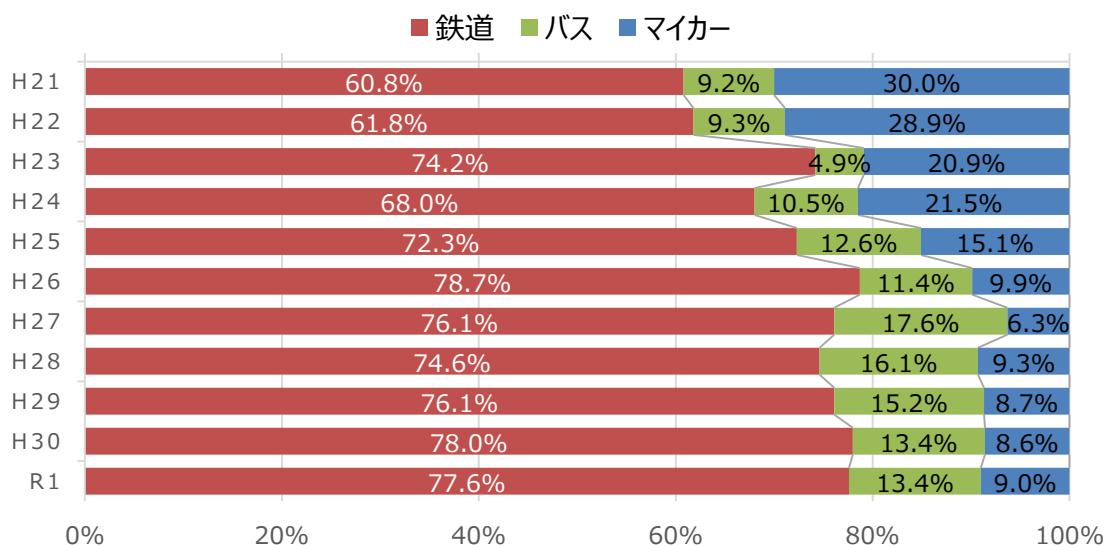
・平成28年の宿泊施設拡充・誘致方針策定時の約3万室から令和元年3月末時点で、約5万3千室に増加しており、現在計画されている宿泊施設も含めると、基本的には施設数としては満たされている。

年度	旅館・ホテル		簡易宿所				合計		
	新規許可件数	総施設数	総施設数	京町家(再掲)	新規許可件数		総施設数	総客室数	新規許可件数
					総数	京町家(再掲)			
H26	27	542	460	40	79	25	1,002	29, 189	106
H27	9	532	696	145	246	106	1,228	29, 786	255
H28	25	550	1,493	370	813	231	2,043	33, 887	838
H29	38	575	2,291	543	871	181	2,866	38, 419	909
H30	73	624	2,990	684	846	171	3,614	46, 147	919
R1	61	656	3,337	899	602	166	3,993	53, 471	663

## 2 入洛利用交通機関割合（日本人）

- ・車（マイカー）の比率は、平成21年の30%から20ポイント以上減少
- ・一方、公共交通機関（電車・バス）の比率は、増加傾向にあり、平成26年以降、90%を超えている。

### 観光客の入洛交通手段



(資料) 京都観光総合調査（平成23年～令和元年）  
京都市観光調査年報（平成21年・22年）

## 3 京町家の減失等の状況

(資料) 平成28年度「京町家まちづくり調査に係る追跡調査」

- ・平成20・21年に行った京町家まちづくり調査では、京町家の残存軒数は47,735軒、空き家率は10.5%で、平成28年に行った追跡調査によると、京町家の残存軒数は40,146軒に減少、空き家率は14.5%に上昇。
- ・この7年間で5,602軒（調査不能を除く。）が滅失しており、年間平均滅失率は1.7と、依然として滅失傾向に歯止めがかかるっていない。

